

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

事業課題名	南アジア・イスラーム研究をめぐる基礎データ構築に係る教員招聘
代表者名	東長 靖（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業は、南アジアのイスラームについて研究する際の基礎データ構築を目指す。一般に、中東がイスラームの中心地であると思われがちだが、実際には今や世界のイスラーム教徒人口の3分の1は南アジアで占められており、これは最大勢力となっている。しかし、この重要なテーマに関する基礎データは、いまだ十分に蓄積されているとはいえない。</p> <p>今年度は、2014 年度の事業「南アジア・イスラーム研究をめぐる基礎データ構築」の発展継続を目指す。昨年度に実施した事業では、南アジアのイスラーム研究に関する基礎データ構築のための枠組・構想について立案したが、2015 年度はその枠組・構想に従って、実際に基礎データ構築を行う。</p> <p>より具体的には、カラチ大学ウルドゥー語学科元教授で、現在はカラチ・オックスフォード大学出版「タサウフ・シリーズ」編集員を務める Moinuddin Aqeel 博士を日本に招聘する。アキール博士はパキスタンにおけるウルドゥー語文学の権威であり、同時にインド、パキスタンのイスラームに関する研究で著名である。</p> <p>今年度進行中のデータ構築の現場に同博士に立ち会ってもらい、ネイティブの専門家の立場からの助言を仰ぐとともに、基礎データの活用方法等についての議論を深める。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>本事業は、現代のイスラーム世界を理解するために重要な南アジアにおけるイスラームを研究する際の基礎データ構築を目指すものである。事業の概要で述べたように、南アジアは、現代のイスラーム世界のなかで最大のイスラーム教徒人口を誇るだけでなく、イスラーム思想の伝達や書籍の出版に関しても、アラブと並んで最も重要な中心地である。</p> <p>このことを実証的に検証するために、主として 20 世紀にパキスタンおよびインドで出版された書籍をとりあげ、どのような書目が、いつ、どこで出版され、どのように流通したかを調べるのが具体的な課題であり、昨年度は実際の調査の前に、枠組・構想をどのようにすべきかを検討したが、今年度は実際にデータを構築し、それをどのように活用するかについて議論を重ねた。</p> <p>2016 年 3 月に本経費によって、モイーヌッディーン・アキール前カラチ大学教授を 3 月 8 日から 25 日の 18 日間にわたって招聘し、学内の総合研究 2 号館 AA402 号室および総合研究 1 号館 304 号室において、本課題に関して、複数回の研究打ち合わせを行った。</p> <p>われわれがすでに構築していたデータベースは、ローマ字のみならずアラビア文字による検索も可能で、なおかつ時空間検索機能をもつものである。さらに、通常の大学図書館が所蔵しえないパンフレット類等の冊子をもデータベース化している。このような長所については、同博士からも賞賛を受けた。</p> <p>また、博士からは従来から、学術的な解題を各々について付すことが望ましい、という助言を受けていたこともあり、学術雑誌『イスラーム世界研究』第 9 巻（2016 年 3 月刊行）において、「南アジアイスラーム文献の出版・伝播 2」（113-196 頁）という特集を組んで、解題を集中的に掲載するとともに、『京都大学所蔵アキール文庫イスラーム関連文献目録』（イスラーム地域研究センター、2016 年、186 頁）を、成果として刊行した。</p>